

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	東京都市計画道路幹線街路環状第4号線		評価該当要件	5年間継続	1回目
実施主体	東京都 (建設局、都市整備局)	事業所管部署	道路建設部街路課、市街地整備部区画整理課		
都市計画決定(当初)	昭和20年度	事業認可年度(当初)	令和元年度	事業期間: R元年度～14年度	
都市計画決定(最新)	平成30年度	事業認可年度(最新)	令和元年度	事業期間: R元年度～14年度	
事業箇所	港区港南一丁目～同区高輪三丁目	事業規模	L=1,270m、W=25.6～33.5m		
事業概要	<p>東京都市計画道路幹線街路環状第4号線は港区港南三丁目から江東区新砂三丁目に至る延長約29.9kmの都市計画道路であり、都市の骨格を形成する区部環状方向の幹線道路の一つとして放射方向の幹線道路と連絡し、都心に集中する交通を分散するなど重要な役割を担っている。</p> <p>今回評価区間は港区港南一丁目から同区高輪三丁目までの1,270m区間について、道路を新設するものである。これにより、国際交流拠点となる品川駅周辺の東西の連絡を強化し、羽田・臨海部・六本木方面とのアクセス性を向上させる。また、道路交通の円滑化、歩行者・自転車の安全性向上、品川駅周辺のまちづくりへの寄与、地域の防災性向上が図られる。</p>				

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)
<p>(社会経済情勢の変化・変更内容)</p> <p>本路線周辺の令和3年度現況交通量は平成27年度と比較して横ばいとなっている。</p> <p>○現況自動車交通量【目黒通り】 平成27年度: 21,692台/12h 令和3年度 20,933台/12h</p> <p>○現況自動車交通量【山手通り】 平成27年度: 35,281台/12h 令和3年度 33,997台/12h</p> <p>(関連する他事業等の進捗状況の変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環状第4号線(白金台)※隣接区間…令和2年12月に事業認可 品川駅北周辺地区…令和4年6月に都市計画変更 品川駅街区地区…令和4年6月に都市計画変更 品川駅西口地区…令和4年11月に都市計画変更 品川駅西口基盤整備事業(品川駅西口駅前広場)…令和元年9月に都市計画事業承認 京浜急行本線連続立体交差事業…令和2年4月に事業認可 補助第334号線及び品川駅北口駅前広場…令和2年2月に都市計画決定 補助第332号線…令和2年2月に都市計画変更 東京メトロ南北線延伸…令和5年6月に都市計画案説明会実施

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	1.5		
現在価値化総便益額(B)	1,083.9億円	現在価値化総費用額	744.2億円
走行時間短縮便益	946.1億円	工事費	404.0億円
走行経費減少便益	116.8億円	用地費	332.1億円
交通事故減少便益	20.9億円	維持管理費	8.1億円
定性的効果			
<p>〈交通〉・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・バスの定時性 ・迂回交通の減少</p>	<p>〈くらし〉・土地利用の転換・高度化 ・交通不便地域の解消 ・商業・産業の活性化 ・公共施設へのアクセス向上</p>	<p>〈安全〉・交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保</p>	
<p>〈防災〉・緊急車両の走行 ・延焼遮断 ・災害時の避難路の確保 ・消防活動困難地域の解消</p>			

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R4年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	39,500百万円	48,050百万円	87,550百万円
執行済額	10,086百万円	4,930百万円	15,016百万円
(執行率)	25.5%	10.3%	17.2%
用地取得状況 (R4年度末時点)			
	取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)
	18,165㎡	5,954㎡	32.8%
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
<p>(港南) ・事業認可期間(R元～R14年度)内であり、当初予定通りに事業は進捗している。現在はJRの鉄道部をまたぐ橋梁工事を遅滞なく実施している。</p> <p>(高輪) ・現道のない新設道路の整備であり、関係権利者も多く交渉に時間を要している。 ・道路の用地取得については用地買収方式だけでなく、土地区画整理事業による換地手法を取り入れることで、関係権利者の意向に基づき、都有地等との土地の交換も選択できる仕組みとしており、合意形成に時間を要している。</p>			
事業の進捗状況・残事業の内容			
<p>(港南) ・用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、引き続き工事を実施していく。</p> <p>(高輪) ・関係権利者との合意形成を図るべく折衝を進め、土地区画整理事業の早期着手を目指していく。 ・先行用地取得済み部分(都有地)では、関係機関との協議を踏まえ、順次工事に着手する。</p>			

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
<ul style="list-style-type: none"> 関係権利者との合意形成を図るべく折衝を進め、土地区画整理事業の早期着手を目指していく。 用地取得状況及び関係機関との協議を踏まえ、順次工事を実施していく。

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
<p>(新工法の採用、事業手法、施設規模等の見直しの可能性など)</p> <p>旧海岸通りから品川駅北口駅前広場の区間において、先行して一部交通開放できるよう、事業効果の早期発現に向けた取り組みを行っている。</p>
その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。 無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画(R3.6改訂)を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。 中温化アスファルトの原則活用を通じ、二酸化炭素の排出量抑制につなげる。

7 対応方針(原案)

総合評価	<p>(事業の必要性等に関する視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体系的な道路ネットワークの形成 品川駅・田町駅周辺のまちづくりへの寄与 交通の円滑化と安全で快適な歩行者・自転車通行空間の創出 緊急車両の速達性向上等による地域の防災性の向上 <p>(事業の進捗の見込みの視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係権利者との合意形成を図るべく折衝を進め、土地区画整理事業の早期着手を目指していく。 用地取得状況及び関係機関との協議を踏まえ、順次工事を実施していく。 <p>以上より、環状第4号線(港南・高輪)は国際交流拠点となる品川駅周辺のまちづくりに寄与し、地域内外との多様な交流を促進させる架け橋となるなど、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。</p>
対応方針(原案)	継続